

串間市教育研究所

I	研究主題	・・・4— 1
II	主題設定の理由	・・・4— 1
III	研究目標	・・・4— 2
IV	研究仮説	・・・4— 2
V	研究構想	・・・4— 2
VI	研究内容	・・・4— 3
1	研究の方向性	・・・4— 3
2	学校生活アンケートの実施	・・・4— 3
(1)	課題の把握	・・・4— 3
(2)	分析・考察について	・・・4— 4
3	「キャリア教育全体プログラム」の作成	・・・4— 5
(1)	「キャリア教育全体プログラム」について	・・・4— 5
(2)	「キャリア教育全体プログラム」を作成する目的について	・・・4— 6
(3)	キャリア教育担当者会の実施	・・・4— 6
4	「キャリア教育全体プログラム」作成研修の実際	・・・4— 7
(1)	実態の把握から焦点化した基礎的・汎用的な能力の決定まで	・・・4— 7
(2)	題材決定から全体構想作成まで	・・・4— 7
(3)	研修の成果と課題	・・・4— 7
5	キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践（A小学校での実践）	・・・4— 8
(1)	授業教科の決定	・・・4— 8
(2)	育成したい具体的な力の設定	・・・4— 8
(3)	授業におけるキャリア教育の視点の作成	・・・4— 8
(4)	授業実践「国語科」	・・・4—8、9
(5)	授業実践後の指導	・・・4— 9
(6)	実践の考察	・・・4— 9
VII	成果と課題	・・・4—10
1	成果	・・・4—10
2	課題	・・・4—10
○	引用・参考文献	・・・4—10
○	研究同人	・・・4—10

I 研究主題

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成
～ 串間市ならではのキャリア教育の推進活動を通して ～

II 主題設定の理由

日本の様々な分野において構造的な変化が起こる「知識基盤社会」が到来し、情報化・グローバル化・少子高齢化などにより、子どもをとりまく環境もめまぐるしく変化している。この社会環境の変化は、子どもにとって将来を考える上で理想的なモデル（大人）が見つけづらい、自分の将来を描きにくいなどの問題をもたらしている。そのため、学生の立場から就業者の立場への移行がスムーズに行えない若者や、目的をもった進路選択や将来計画が希薄なままに進学したために、進路変更をしなければならない学生が増加し、社会問題にもなっている。こうしたことを踏まえ、変化の激しい社会を生き抜く力を持ち、様々な課題に柔軟に対応できる職業的・社会的に自立した子どもを育成するキャリア教育の推進が強く求められている。

串間市では、「学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指して、平成20年度から小中高一貫教育をスタートさせ、くしま学や読書教育などの取組を通して、校種間の連携を深めてきた。キャリア教育に関しても、キャリア教育部会を設置し、キャリア教育に関するアンケート調査や、手引書の作成などに取り組んできた。

小中高一貫教育の組織にも位置付けられている本研究所では、平成24年度よりキャリア教育の研究を行っている。一昨年度は、キャリア発達を促す「学級活動の指導の在り方」を中心に研究し、串間市におけるキャリア教育の全体構想、学級活動におけるキャリア発達の課題を基にした指導内容や能力の系統表、発達段階を踏まえた学級活動の授業の在り方について提案することができた。また、昨年度は教職員がキャリア教育についての理解を深めるためのリーフレットや「キャリア教育の視点」を基に、体験活動を中心とした各教科等の学びを意図的に関連付けた全体構想を作成し、授業を実践することができた。

しかし、課題としては、昨年度の研究内容が串間市の全教職員に普及していないことや、学校全体や学年間の「縦の連携」を図るための組織的かつ系統的なキャリア教育が実践されていないことなどが挙げられた。

そこで、今年度も、キャリア教育の視点を生かした授業改善を通して、夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成を目指し、昨年度の研究を発展させ、縦の連携の強化を図りながら、次の2点を軸に研究を進めることとした。

一つ目は、昨年度作成した学校生活アンケート（小学校1～3学年・小学校4～6学年・中学校及び高等学校・教職員）を活用して、串間市全体の児童・生徒の実態を把握することである。本市では小規模の学校が多いため、市全体でアンケートを実施し客観的なデータを基に分析を行う必要がある。また、児童・生徒の実態を把握し分析することでキャリア教育の目標等を明確にしたり、教職員がアンケートに答えることでキャリア教育に対する意識を高めたりすることができ、各校の教育活動がさらに充実するであろうと考えた。

二つ目は、アンケートの結果を受けて、各学校で目指す児童・生徒像を焦点化し、「キャリア教育の視点」を基に、児童・生徒の心を揺さぶる体験活動を中心とした各教科等の学びを意図的に関連付けた「キャリア教育全体プログラム」を全職員で作成することである。このことにより教職員がキャリア教育の有用性を実感し、共通理解・共通実践することで、児童・生徒の学びの質が高まるとともに、児童・生徒は学習の意義を見いだしたり、学習意欲が向上したりするであろうと考えた。

これらの取組を継続することにより、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を身に付

けさせることはもちろん、自己の将来や就きたい職業、生き方について深く考えさせることにもつながるものと期待される。また、各教科や特別活動等における学習が自己の将来に役立つと考え、主体的に学校生活を送るようになると思われる。さらに、「学ぶこと」の意義を自覚した児童・生徒は、生涯を通して、自分の将来につながる「今」を充実させるために、現在をどのように生活すればよいか常に考え、実行できるようになると考えられる。そのような社会的にも職業的にも自立し、自分らしい生き方ができる人格の形成を支援する教育を目指し、本主題を設定した。

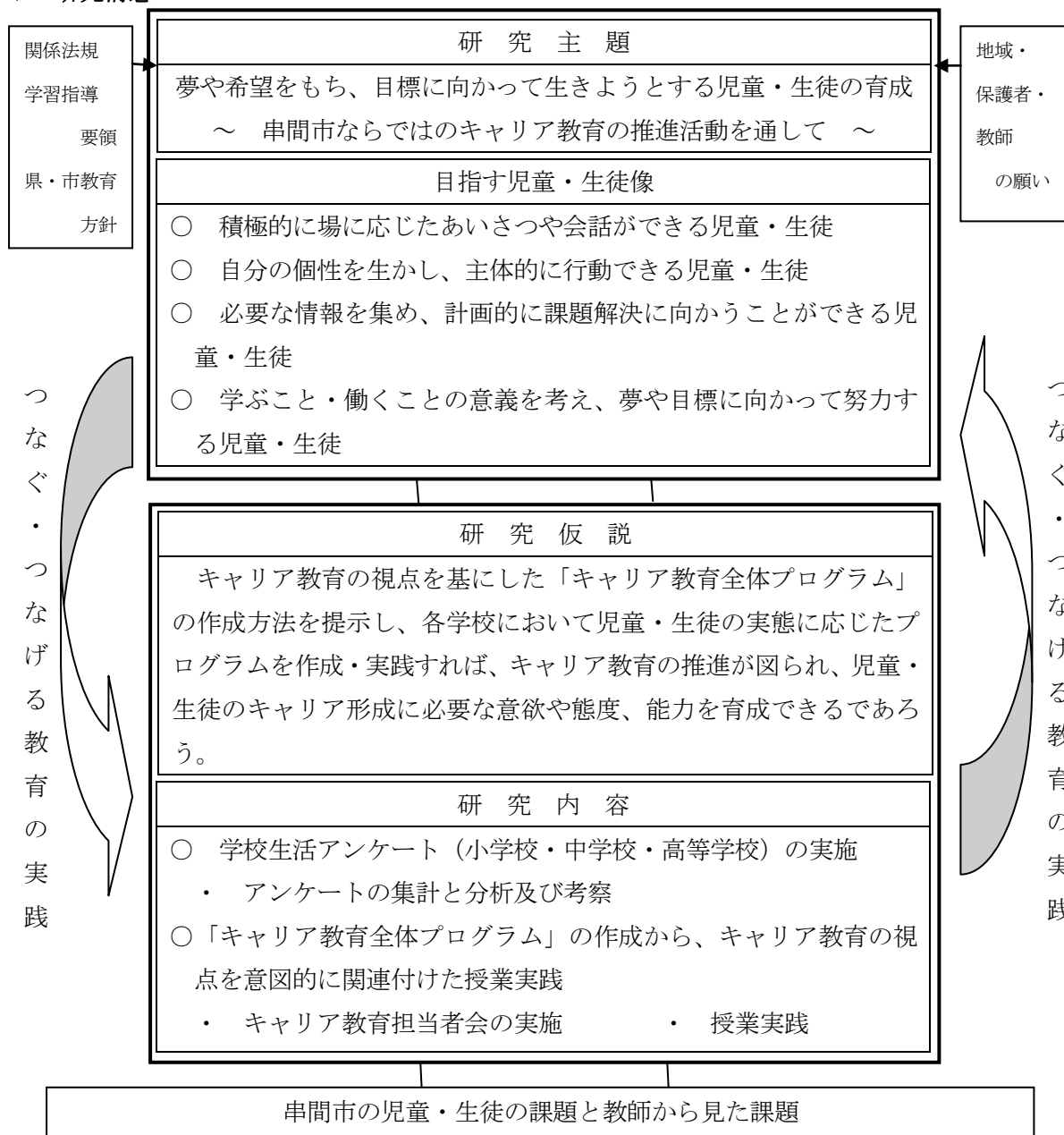
III 研究目標

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童・生徒の育成を図るために、児童・生徒の実態に応じたキャリア教育推進の在り方を究明する。

IV 研究仮説

キャリア教育の視点を基にした「キャリア教育全体プログラム」の作成方法を提示し、各学校において児童・生徒の実態に応じたプログラムを作成・実践すれば、キャリア教育の推進が図られ、児童・生徒のキャリア形成に必要な意欲や態度、能力を育成できるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 研究の方向性

今年度は、昨年度の課題「キャリア教育の視点をもった授業を広げていくこと」、「核となる体験活動を位置付け、児童・生徒の発達段階に応じた系統的な指導の研究を深めていくこと」を工夫・改善していくために、キャリア教育を個人レベルの実践から組織レベルに引き上げることを研究内容とした。

2 学校生活アンケートの実施

(1) 課題の把握

昨年度、本研究所では文部科学省の「キャリア教育の手引き」を基に、リーフレット「キャリア教育の道しるべ」を作成した。その際、児童・生徒が日常生活を振り返り、また、キャリア教育ではぐくむ力、基礎的・汎用的能力（本市では、かかわる力・みつめる力・解決する力・えがく力と分かりやすい言葉にした）の課題を把握するために、アンケートを実施した。

アンケートは、市内の全小学校・中学校・高等学校の児童・生徒及び教職員を対象とした。すべての児童・生徒を対象としたことで、串間市の子どもたちが抱える発達段階による課題を明確化することにした。また、すべての学校で実施することで、各学校や地域のキャリア発達の課題を把握することにした。

教職員用のアンケートには「キャリア教育を意識しながら指導していますか。」「キャリア教育の道しるべを活用していますか。」という設問を追記し、教職員の自己評価や啓発にも活用した。上記の設問において、4段階評価で中学校教職員の結果を平均すると、それぞれ2.9ポイントと1.8ポイントとなった。



【リーフレット「キャリア教育の道しるべ」】

学校生活チェックシート～中学校教職員用～

氏名 ()

子どもたちの様子を見て、当てはまると思われる数字に○をつけてください。 ※4段階で判断する。
(4…ほとんどできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…ほとんどできていない)

No.	質問	評価
1	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。	4 3 2 1
2	自分と違う意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝えることができる。	4 3 2 1
3	周りの人に配慮しながら、積極的に関係性をつくらうとしている。	4 3 2 1
4	人のよさや気持ちを尊重しながら、協力して仕事や活動をするすることができる。	4 3 2 1
5	グループ活動で、班長あるいはまとめ役となって、他の意見をまとめながら活動することができる。	4 3 2 1
6	自分の長所や個性を理解し、自分を大切にできる。	4 3 2 1
7	自分の個性や興味・関心を生かした活動等を選択できる。	4 3 2 1
8	自分で選んだことや行動したことは、自分で責任をもつことができる。	4 3 2 1
9	気持ちが乗らない時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組むことができる。	4 3 2 1
10	自分の欠点に気づき、改善しようとする努力ができる。	4 3 2 1
11	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。	4 3 2 1

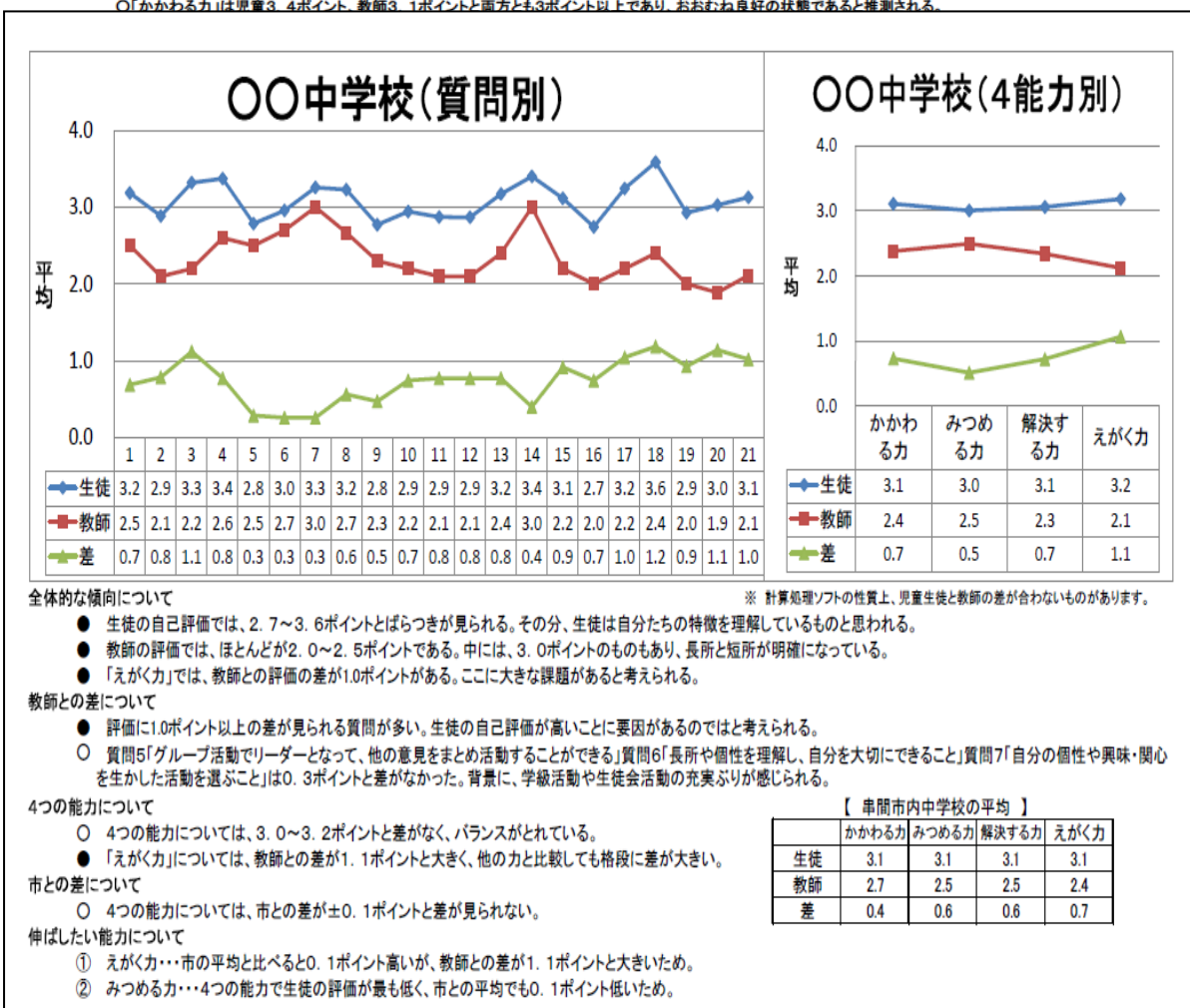
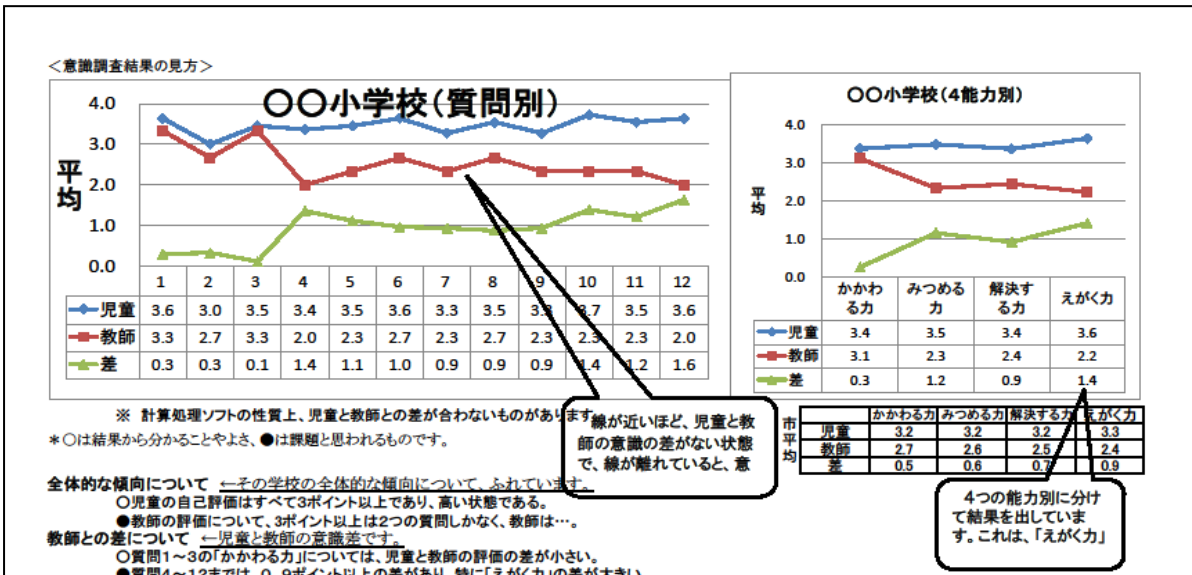
【学校生活アンケート（中学校教職員用）】

市全体の平均 2.9ポイント	
22	あなたは、キャリア教育を意識しながら指導していますか。
23	あなたは、昨年度、市教育研究所が配付した「キャリア教育の道しるべ」を活用していますか。
市全体の平均 1.8ポイント	

【学校生活アンケート集計結果より】

(2) 分析・考察について

分析表は、小中高の18校、そして、市全体の小学校及び中学校ごとにまとめたものを作成した。データをグラフ化して見やすくするとともに、小規模校ではデータが不足するので、本市全体の結果と比較できるようにした。また、児童・生徒の評価だけでなく、教職員の評価を入れることで、より客観的な分析ができるようにした。



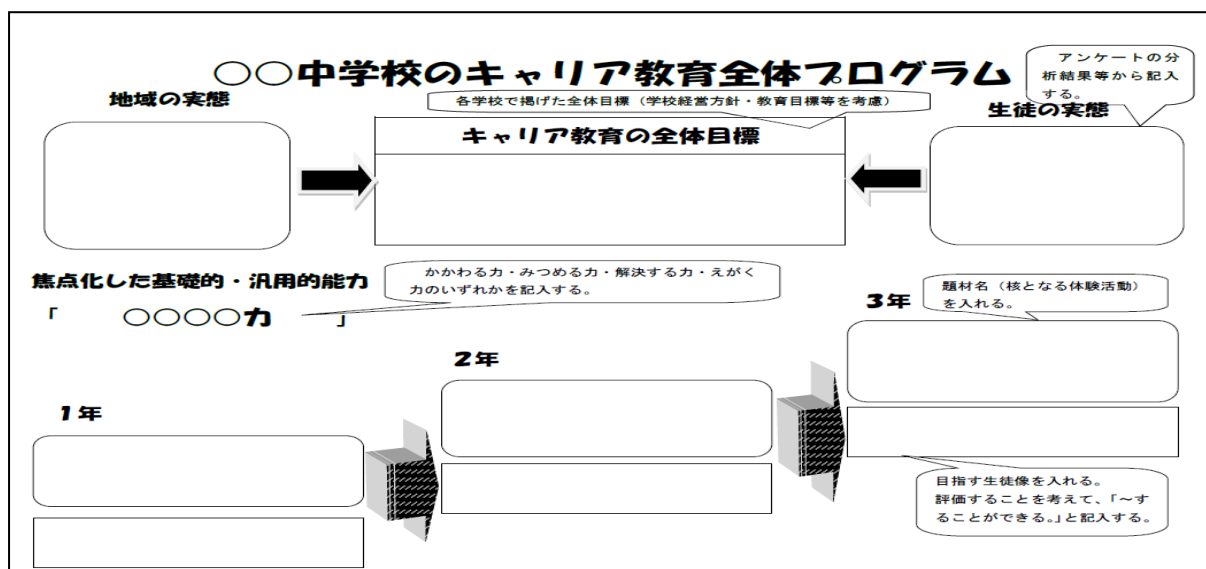
【分析及び考察の実践例】

3 「キャリア教育全体プログラム」の作成

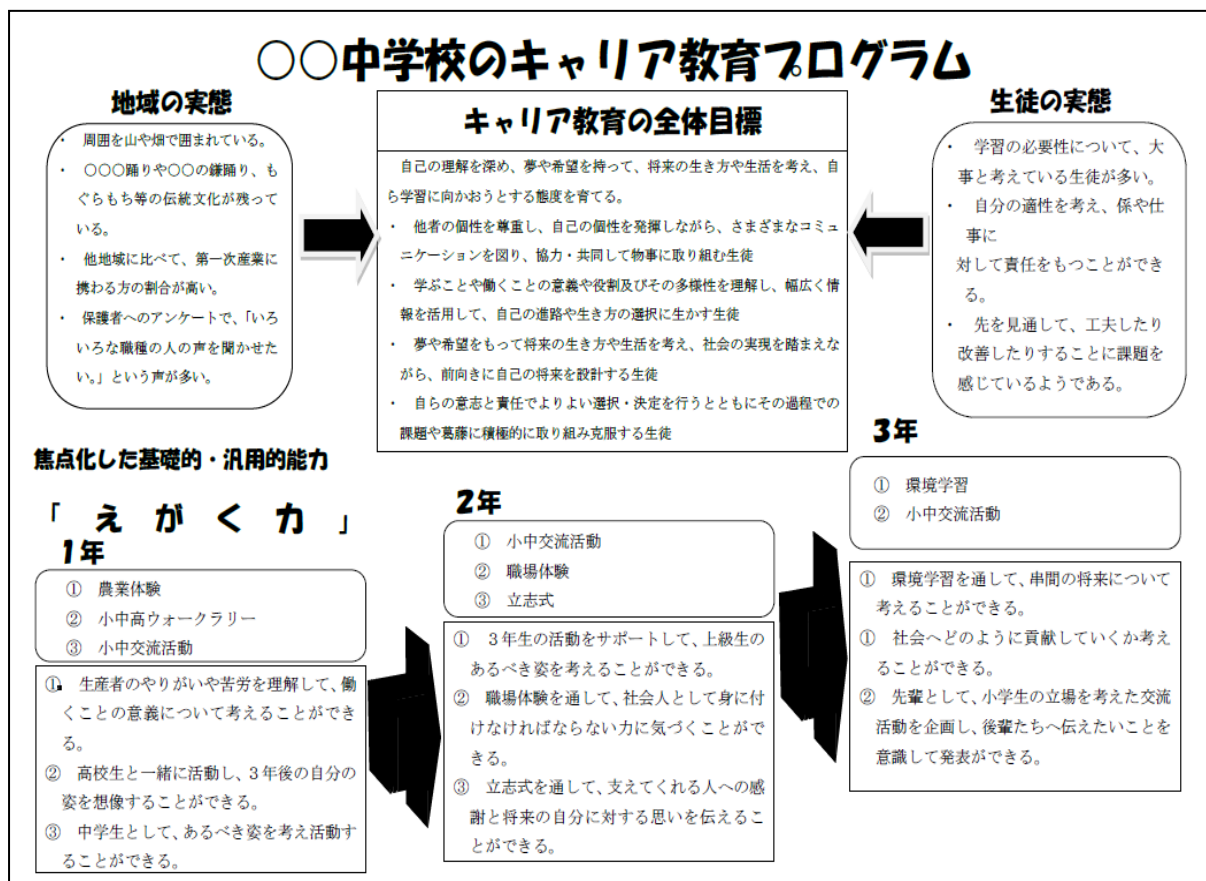
(1) 「キャリア教育全体プログラム」について

各学校で作成しているキャリア教育の全体構想を、より簡潔で明確にしたものを「キャリア教育全体プログラム」と命名した。作成の手順は以下のとおりである。

- ① 地域・児童・生徒の実態を基に、キャリア教育の全体目標を設定する。
- ② アンケートの結果で、課題とした基礎的・汎用的能力を焦点化する。
- ③ 「くしま学」を中心とした体験活動を整理する。
- ④ 目指す児童・生徒像を設定する。 ※ 「～することができる。」と具体的に書く。



【「キャリア教育全体プログラム」（中学校用）】



【「キャリア教育全体プログラム」（実践例）】

(2) 「キャリア教育全体プログラム」を作成する目的について

キャリア教育全体プログラムを、全職員で作成することにより、児童・生徒の生活を見つめ直して課題を把握する。目指す児童・生徒像を共有することで、同じ目的でキャリア教育の視点からの問い掛けを行うことができ、より系統的で計画的なキャリア教育の実践が行われると考えた。

また、他の目的として、

- ① 教室や廊下等に示して、「自分もあんなことがしたい。」といった児童・生徒の思いや願いにつなげる。
- ② 保護者や地域・企業の方に示して、協力や要請の趣旨説明に活用する。
- ③ 異校種の先生に示して、キャリア発達の段階や学習内容を説明する。

以上のような活用方法も考えられる。

(3) キャリア教育担当者会の実施

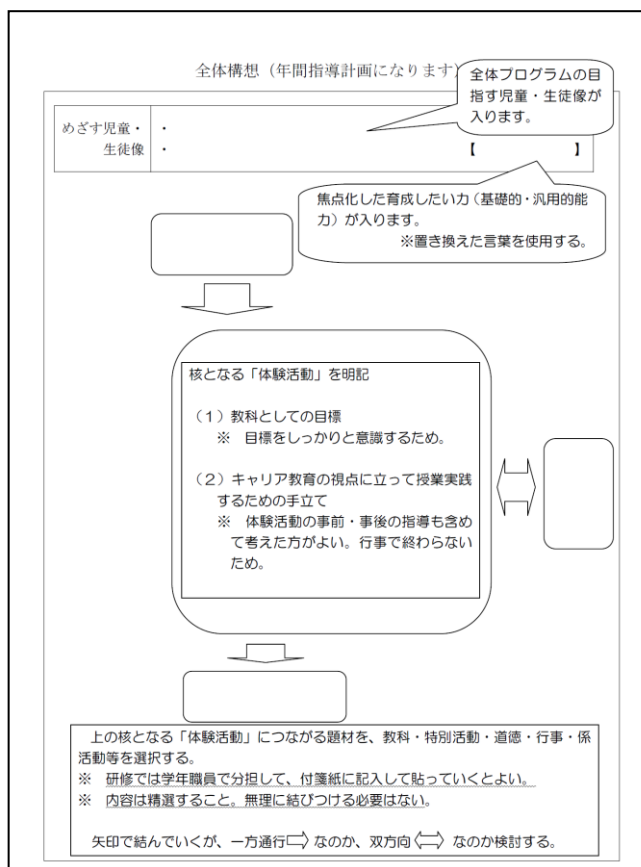
キャリア教育を推進するためには、各学校における研修を充実していく必要があると考え、市内の各小学校・中学校のキャリア教育担当者を集め研修会を行った。キャリア教育の必要性や全体プログラムから全体構想（年間指導計画）を作成するまでの手順を確認した。また、演習のグループは、小中連携を考慮して中学校区で編成した。



【キャリア教育担当者会の演習】

キャリア教育の視点に立った授業を実践するためには、全体プログラムを作成しただけでは、キャリア発達を促すための授業は実践できない。そこで、核となる体験活動と、各教科や道徳、特別活動等を、どうつなげていくかで、全職員で検討する必要がある。核となる体験活動を実施しただけで終わるのでなく、事前指導や事後指導の手立ても考えていくように確認した。

研修後の先生方の感想では、「キャリア教育全体プログラムの重要性が分かった。」「小中合同で相談しながら作成することができたので、共通の取組ができる。」という意見が多かった。学校間でキャリア教育の実践状況も異なり、担当者としての悩みを共有し、改善するための手立てにつながったと考える。



【全体構想作成の流れ】

4 「キャリア教育全体プログラム」作成研修の実際

キャリア教育担当者会を受け、キャリア教育担当者は、各学校において「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成する研修を実施した。昨年度、本研究所が提示した、リーフレット「キャリア教育の道しるべ」を活用し、串間市におけるキャリア教育について確認をした後、作成作業を行った。

- (1) 実態の把握から焦点化した基礎的・汎用的な能力の決定まで
まず、地域の実態・児童の実態について話し合いを行った。校内に掲示をしたり、保護者や地域・企業の方に提示したりすることを考慮し、A小学校の実態を端的に表すこととした。同様に、キャリア教育の全体目標についても、能力別ではない大きな目標を一つ掲げることで、シンプルに一目で分かるものとした。次に、焦点化した基礎的・汎用的能力について協議した。

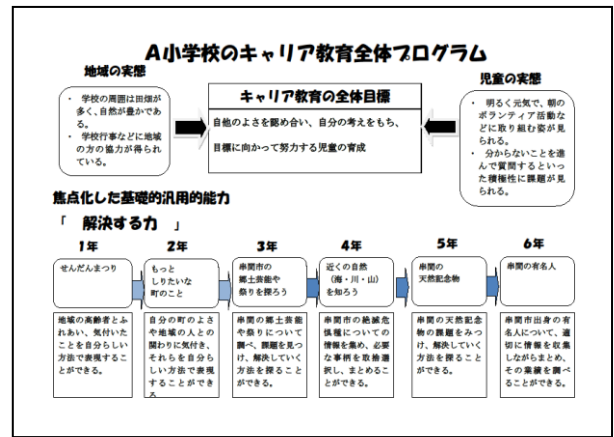


【職員研修の様子】

その際、学校生活アンケートの分析表「四つの能力」の結果や本研究所が洗い出した「伸ばしたい能力」についての分析結果を基に話し合い、A小学校においては、『解決する力』に焦点化して「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成することとした。

- (2) 題材決定から全体構想作成まで

題材については、核となるような体験活動が位置付けられている教科等の中から決定することとした。第3学年以上については、「体験活動が多く含まれ、他教科での学習を生かしやすい。」「本校が伸ばしたい解決する力を発揮できる場面が多い。」という意見から、くしま学を主な単元とした。その後、目指す児童像を各学年で検討し、各教科等における年間指導計画を参考に全体構想を作成した。

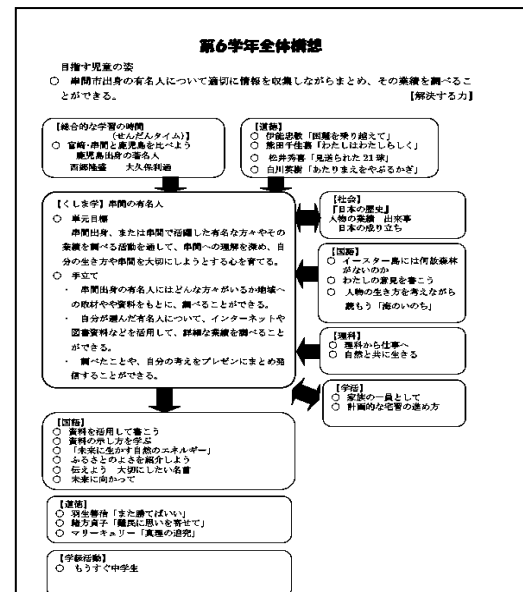


【キャリア教育全体プログラム】

- (3) 研修の成果と課題

研修後に、四段階で評価を行うアンケートをとった。「キャリア教育全体プログラムの作成の方法は分かりやすかったか。」という設問では、100%が肯定的な回答をした。自由記述では、「キャリア教育全体プログラムや全体構想の作成法が簡潔に示してあり、理解しやすかった。」「シンプルでよかった。」という意見が見られた。また、「日頃から活用できるキャリア教育全体プログラム・全体構想ができた。」という感想もあった。

成果として、今回のキャリア教育全体プログラム作成研修を通して、すべての職員がキャリア教育について意識し、その視点を生かした授業を展開しようという共通理解ができた。課題として、学校ごとの課題だけでなく、発達段階も考慮した身に付けさせたい力の焦点化ができるとよいという意見も寄せられた。



【全体構想の例】

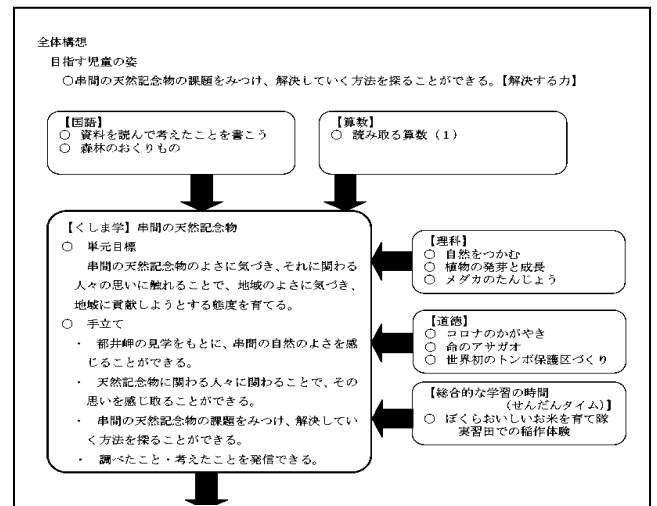
5 キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践（A小学校での実践 ～第5学年～）

(1) 授業教科の決定

本実践では、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」に従って、意図的にキャリア教育の視点と関連付けた授業実践を行うこととした。本校の課題が「解決する力」となっており、その力をつけるため、「全体構想」の中から、くしま学につながる国語科の授業を行うこととした。

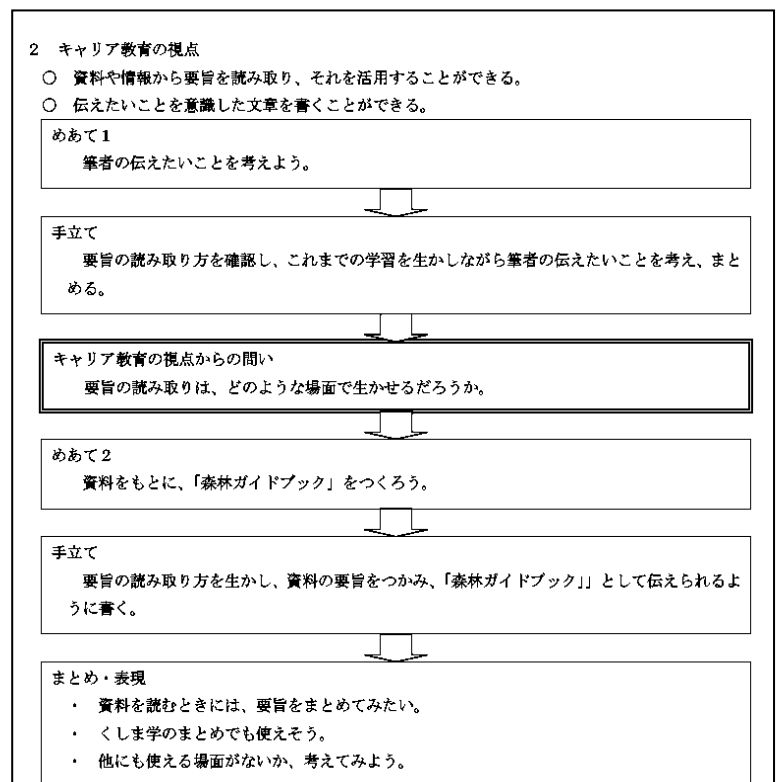
(2) 育成したい具体的な力の設定

「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を基に、目指す児童の姿を「串間の天然記念物 【「解決する力」をはぐくむための全体構想】の課題を見つけ、解決していく方法を探ることができる児童」とした。くしま学の「串間の天然記念物」のよさを伝えるためには、そこに関わる人々の言葉にも目を向けることが必要である。児童は、それらの情報を理解・整理し、処理する活動を行っていく。これらの力を育成していくために、国語科の単元「森林のおくりもの」において要旨をとらえる学習を行うこととした。



(3) 授業におけるキャリア教育の視点の作成

この実践では、「解決する力」を育むため、国語科とくしま学を意図的に関連付けたキャリア発達支援の流れを作成した。キャリア教育からの視点からの問いを「要旨の読み取りは、どのような場面で生かせるだろう。」とすることで、くしま学での資料を読み取る場面やまとめの場面で使えるのではないかと児童の考えを引き出そうと考えた。「キャリア教育の視点からの問い」を設定することで、くしま学の学習内容を意識した授業が展開できるようにした。



(4) 授業実践「国語科」

ア 単元名「森林のおくりもの」

イ 本時の目標（4／9）

- 結論部分を読んで、文章の要旨をまとめ、題名の工夫について考えることができる。

【関心・意欲・態度】【読むこと】

ウ 学習指導過程

学習内容および学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 前時の振り返りをする。	○ 前時の内容を振り返り、森林のおくりものの内容を 確認する。
2 本時のめあてを知る。	◎ 筆者の伝えたいことを考えよう。(要旨)
3 教科書を音読する。	○ 結論の部分を読み、どのような内容になっていたか、 確かめさせる。
4 森林のおくりものは誰か ら送られたものか考える。	○ おくりものの受け手についても考えさせる。 ◎ <u>近くの児童で協力して課題を解決する。</u> ○ 「わたしたち」には、児童自身も含まれることに気 付かせる。
5 結論の部分から要旨をま とめる。	○ キーワードにラインを引き、それを活用させる。 ◎ <u>筆者の伝えたいこと(要旨をまとめること)は、国 語以外にも使えるのか考えさせる。</u>
6 本時の学習を振り返り、 次時の学習について知る。	○ 森林ブックガイドを作っていくことを伝える。

(5) 授業実践後の指導

国語科において、キャリア教育を意識した授業を行った後、核となる体験活動である、くしま学の「串間の天然記念物」を行った。インターネットで、都井岬に関わっている人々についても調べ、発表を行った。その際、ホームページをそのまま写すこれまでの方法ではなく、要旨をまとめて地域の方の願いをまとめるようにした。初めての取組であったが、子どもたちからは、「分かりやすくなった。」「他の資料でも使いたい」といった声が聞かれた。



【くしま学の授業の様子】

これまでは、インターネットで調べたことを、そのまま写すか、印刷するかだったけど、これからは、調べたことを要旨をまとめて、発表したいです。要旨をまとめるのも、と分かりやすくなると思うので、これからも使いたいです。

【くしま学の授業後の感想】

(6) 実践の考察

- キャリア教育の視点からの問いである「要旨の読み取りは、どのような場面で生かせるだろう。」という発問に対して、児童は初め戸惑っていたようであった。「国語だけではなく？」という声かけを行うと、すぐに「くしま学」と答えた。この日の日記にも、「国語だけでなく、総合でも使えることが分かった。」とあり、今回の学習を生かそうという児童の意欲が高まった。
- 今回行った授業実践においては、核となる体験活動は含まれていなかった。通常の授業を行っていたら、この国語の学習とくしま学の活動とのつながりは、非常に薄いものとなっていたと考える。しかし、今回作成した「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を作成、活用することで、国語科においてもくしま学の体験活動を意識した授業を行うことができた。結果的に、国語科とくしま学がキャリア教育を通じてリンクし、児童の「解決する力」を高めることができた。このように、児童が学校生活の中で「解決する力」身に付けて行くには、「キャリア教育全体プログラム」「全体構想」を活用した実践を継続していく必要があると考える。

Ⅶ 成果と課題

1 成果

＜学校生活アンケートに関して＞

- 市内全学校に学校生活アンケートを実施し、その結果を集約・分析したことで、串間市の児童・生徒のキャリア発達における課題を具体的に把握することができた。

＜キャリア教育担当者会の実施に関して＞

- 各小中学校のキャリア教育担当者にキャリア教育全体プログラムの作成研修を実施したことにより、キャリア教育で育成すべき力を中心としたキャリア教育の推進が各校で図られた。

＜キャリア教育全体プログラムに関して＞

- 「キャリア教育全体プログラム」から「全体構想」を作成することで、キャリア教育の進め方を職員間で共通理解することができた。

＜授業実践に関して＞

- キャリア発達を支援する授業実践は、個々の児童生徒の課題意識を高め、課題解決に向けて主体的に取り組む児童生徒を育成する手立てにつながった。

2 課題

＜キャリア教育全体プログラムの深化について＞

- キャリア教育の進め方や授業の在り方について、一貫教育担当者会等との連携を図り、学校間で情報を共有しながら、よりよいキャリア教育全体プログラムを目指す必要がある。

＜評価について＞

- 小中高を見通したキャリア教育の成果を見届けるために、児童・生徒のキャリアが日々の授業でどのように変容したかについて把握する評価の仕方とその生かし方について研究する必要がある。

【引用・参考文献】

- ・小学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・中学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・キャリア教育って結局なんだ？ [平成21年11月 国立教育制作研究所]
- ・宮崎県キャリア教育ガイドライン [平成25年1月 宮崎県教育委員会]
- ・「キャリア教育」資料集 研究・報告書・手引編 [平成25年度版 文部科学省]
- ・平成24年度研究紀要 [平成25年2月 串間市教育研究所]
- ・平成25年度研究紀要 [平成26年2月 串間市教育研究所]

【研究同人】

所長	土肥 昭彦	(串間市教育長)		
事務局	都成 量	(学校政策課長)	野邊 幸治	(学校政策課長補佐)
指導員	甲斐 寿尚	(指導主事)		
研究員	塩月 貴	(大平小学校教頭)	田中 洋貴	(福島小学校)
	園木 和久	(北方小学校)	川越 賀津雄	(本城小学校)
	日高 真	(福島中学校)	野邊 智亮	(大東中学校)
	上野 亮	(都井中学校)		